

南阿蘇村



熊本地震 震災ミュージアム
Kumamoto Earthquake Museum

熊本地震 震災遺構

ガイドマップ



防災は、自分のためだけじゃない。
自分が生き延びることで
大切な誰かを悲しませないように
そして生き残って大切な誰かを救うために
必要なんです。

(南阿蘇村 語り部講話より)

2016年4月、2度の震度7という未曾有の大地震が
熊本を襲い、南阿蘇村でも甚大な被害が発生しま
した。

その熊本地震の経験を風化させずに後世に伝える
べく、南阿蘇村では「熊本地震 震災ミュージアム」
の一角として、被災の様子を伝える震災遺構の保
全・整備を行っています。

南阿蘇村に残る熊本地震の記憶～9つの震災遺構～



1 立野地区犀角山周辺の地表地震断層(整備中)
道路や斜面が布田川断層によって右横ずれ変位している様子を観察できます。
※整備中につき見学できません



2 黒川地区の地表地震断層
布田川断層が道路を横切り、右横ずれ変位が発生。現在、道路は仮復旧されていますが、中央線と道路に埋め込まれたキャッツアイから変位が確認できます。
※生活区域のため、住民への配慮をお願いします
出典：熊本大学



3 床瀬川橋
土台は石造アーチで路面はアスファルト舗装の生活路。今回の地震ではアーチ部分は耐えましたが、路面は損壊。震災の傷跡と昔の技術の高さが窺えます。
※生活区域のため、住民への配慮をお願いします



4 崩落した阿蘇大橋の橋げた
本震時に崩落。落橋原因は地震動、地盤変動、崩土、橋支持部崩壊などが指摘されています。現在は崩落した橋桁の一部が対岸から見えます。
※数鹿流崩之碑展望所から見学できます



5 阿蘇ファームランド地下通路
宿泊者専用駐車場と施設を結ぶ地下トンネルを横切った断層。コンクリートの継ぎ目により右横ずれしているのが確認できます。
※観光施設のため、他の観光客へのご配慮をお願いします



6 阿蘇中央火口丘群の表層崩壊
阿蘇五岳をはじめとする中央火口丘群では多数の表層崩壊が発生。特に御鐘門山、烏帽子岳ではその爪痕と植生遷移の様子が確認できます。
※崩壊部は危険なため近づけません、道の駅あそ望の郷くぎの等から見学できます
出典：熊本大学



7 高野台大規模地すべり
高野台団地は土砂災害警戒区域等の指定を受けていない緩やかな傾斜地でしたが、本震の強い揺れで厚く積もった火山灰層での地すべりが発生。家屋を飲み込み、複数世帯が全半壊、4世帯5名が亡くなりました。現在は地すべり跡に表出した地層が保存されている他、防災公園としても整備され、約500人の3日分の水・食料の備蓄や防災トイレなどを備える災害支援拠点となっています。



8 数鹿流崩れ(大規模山腹崩壊)
熊本市から阿蘇市・大分方面(国道57号線)と南阿蘇・宮崎方面(阿蘇大橋)への分岐点であり、熊本と大分を結ぶJR豊肥本線も通る九州横断の交通の要衝。本震の強い揺れにより溶岩でできた阿蘇カルデラ外輪山の崖が横幅約200m崩落し、土砂は約700m流下しました。この斜面崩壊で国道57号線とJR豊肥本線は崩落土砂に飲み込まれ、阿蘇大橋も崩落しました。
地震直後の様子
地震直後の様子
※南阿蘇復興公園から見学できます



9 旧東海大学阿蘇キャンパス
全国から集まった約1,000名の東海大学農学部の学生が学ぶ「牧場・農場一体型キャンパス」でした。熊本地震の本震では断層が鉄筋コンクリート造の1号館の真下を通り、広場には全長約50mに及び地表地震断層(右横ずれ断層)が現れました。地震の発生が深夜だったために人的な被害は免れましたが、一部実習施設を除いてキャンパスは移転。現在は建物の被害と断層の関係を観察できる場所として、1号館の一部と地表表層断層が一般公開されています。
地震直後の様子
地震直後の様子
※数鹿流崩之碑展望所から見学できます
※団体での見学は事前予約が必要です



2016年 熊本地震



出典：熊本地震デジタルアーカイブ/提供者：熊本県



出典：熊本地震デジタルアーカイブ/提供者：熊本県



出典：熊本地震デジタルアーカイブ/提供者：熊本県上益城消防組合消防本部

これまでの地震では「最初に起きた揺れが本震で、その後は本震よりも小さな余震が続いていく」と思われていましたが、今回の熊本地震では最初に起きた揺れよりも大きな揺れが28時間後に起きました。「最初に起きた揺れが本震とは限らないので、油断せずに備えなければいけない」という教訓を残してくれました。また余震が長く続いたため、多くの方が建物の中に留まることができずに車中泊生活を強いられたことも特徴です。

前震
平成28年4月14日午後9時26分
マグニチュード6.5
地震の深さ11km
最大震度7
(南阿蘇村河陽地区では震度5弱を観測)

本震
平成28年4月16日午前1時25分
マグニチュード7.3
地震の深さ12km
最大震度7
(南阿蘇村河陽地区では震度6強を観測)

余震
震度1以上の地震の回数 4,484回
(地震後2年間での記録)
うち震度5以上の回数 25回

南阿蘇村の被災状況

南阿蘇村では前震(震度5弱)での被害は小さかったですが、本震(震度6強)では地表地震断層が出現し、村が引き裂かれ、突き上げるような強い地震の揺れで数多くの家屋が倒壊しました。同時に、村のあちこちの斜面は崩落し、土砂災害による甚大な被害が発生しました。この土砂災害の多くは阿蘇カルデラの火山に由来する地形・地質的な特性が要因とされています。火山と共に生きる私たちへの大切な教訓となりました。



その他

- 死亡者 31名(関連死15名含む)
- 重傷者 31名、軽傷者 120名

- ライフライン: 村内全域で停電発生、最大3,761世帯(約80%)で断水発生
- 交通インフラ: JR豊肥本線・南阿蘇鉄道の不通

主要道路(国道57号線・阿蘇大橋、長陽大橋、俵山トンネル等)の寸断

- 全壊 699世帯
- 半壊 989世帯
- 一部損壊 1,173世帯 ※2021年1月時点

- 農業被害: 農地の地割れ、農業用水路の被災、人手不足の悪化
- 観光被害: アクセス悪化、施設被災、風評による観光客激減
- その他: 山腹崩壊及びその後の豪雨による土砂崩れ多数

※南阿蘇村の人口: 11,652人、世帯数: 4,744世帯(2016年2月末時点) ※平成28年6月19日から6月25日に発生した豪雨被害を含む

復旧・復興の歩み



被災した長陽大橋



復旧した国道57号線



新阿蘇大橋(仮称)



被災した南阿蘇鉄道の線路



全線開通したJR豊肥本線



応急仮設住宅



災害公営住宅(復興住宅)

交通インフラの復旧

熊本地震では「阿蘇大橋」「長陽大橋」「俵山トンネル」という熊本と南阿蘇を繋ぐ主要道路、そして「JR豊肥本線」「南阿蘇鉄道」の鉄道路線も寸断されました。その後、地震から半年後に「俵山トンネル」、1年半後に「長陽大橋」が復旧。2020年には数鹿流崩れの斜面对策工事(再発防止のための安定化)が完了し、8月にJR豊肥本線が全線再開、10月に国道57号線が開通しました。残る阿蘇大橋は安全性・経済性の観点から約600m下流に架け替えられて2021年3月に開通予定。南阿蘇鉄道も2023年夏頃の全線開通を目指して復旧工事が進んでいます。

暮らしの再建

地震の揺れその他、併発した土砂災害により多くの家屋が被災。水道などのライフラインが集落単位で寸断された場所もあり、長期の避難生活を余儀なくされる方も多かったです。避難生活は体育館や宿泊施設から始まり、応急仮設住宅を経て、現在では自宅再建や災害公営住宅(復興住宅)への入居と進んでいます。

南阿蘇村 復旧復興記録映像



南阿蘇村では、熊本地震の被災、そして復旧・復興の様子を後世に残すべく、復旧・復興の軌跡を辿る記録映像をYouTubeにて一般公開しています。



南阿蘇村 防災教育プログラム



熊本地震の経験や教訓を次世代に繋いでいくため、みなみあそ観光局では震災遺構現地を語り部ガイドが案内する学校向けプログラムを提供しています。

熊本地震伝承公式アプリ「つなぐ」



南阿蘇村の震災遺構や観光情報を紹介するスマートフォン向けアプリ。阿蘇大橋付近や高野台では地震発生時の再現イメージを含む動画を視聴できます。



お問い合わせ

南阿蘇観光案内所 TEL 0967-67-2222

第2版: 2021年3月発行

